

東洋精工株式会社

所在地 野木町大字野木 1997

従業員数 30名

主な事業内容

マイクロモーターシャフトの製造販売

弊社は、昭和37年7月に創業し、自動車部品・精密機器・家電機器・OA機器・油圧機器等の加工を行い54年になります。外径サブミクロンの超精密研磨と金属全般の加工技術を駆使し、『品質第一』を心掛け常に製品の信頼性に努め、顧客の要求と期待に応えるとともに環境負荷の低減活動を通して、全社員と共に地域社会の発展に努力してまいります。



《社員のひとこと》

アットホームな雰囲気の中お仕事させていただいております。弊社製品は見えるところには使われていませんが、皆さんが日々使用している身近な製品の部品として使われています。

今後も技術の向上に社員一同努力してまいります。

(生産管理課 柳田祐子)



広報連絡委員レポートNo.373

追憶：  
思い出のプレハブの建物

広報連絡委員  
齊藤 逸郎



ある日曜日の午前、携帯の着信音が鳴り響く。「今何してる、暇？どう、11時にいつものところ」。携帯電話は切れる。いつものところとは、「丸林東下二三球技愛好会」と表札が掲げられているプレハブの小さい建物のことである。

暇を持って余し退屈していた初老の男たちが無精ひげを伸ばし、三々五々集まってきた。その人数十二、三人ほど。この日の会費千円を徴収しスパーへ買い物。買い物内容はビールとその他のアルコールと肴である。冬期には鍋料理をつくることもある。慣れない手つきで包丁を握り、肉、野菜、他の具材を刻み鍋に入れる。味が薄いか、何を入れるとか周囲の輩の声がかましい。大雑把な味付けの鍋料理がどうかできあがり、ビールで乾杯。

は饒舌になってくる。カラオケはなく歌は出ないが、俄か評論家になり知ったかぶりしてスポーツ、経済、政治の話、そのほか巷の話など話題は多岐にわたり、尽きることなく盛り上がり夕暮れまで続くこともあった。仲間との交流は楽しくストレス発散、そして連携で絆が強くなっていく。

地主への配慮と近隣の環境の変化から、4年前このプレハブの建物も解体せざるを得なくなり、今は植林され往時の面影はなくなってしまった。

また、ソフトボールの試合の都度、反省会と称して集まり、来るもの拒まず去るもの追わずの気軽な雰囲気、多くの人との出会い交流の機会となった小さな建物も今はなく、寂寥感を覚えるのは私一人だけであるまい。

古希をとうに過ぎた丸林在住の一人の暇人のつぶやきでした。

